

地域連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)



ご挨拶と外科のご紹介

副院長（外科部長）遠藤和伸

平素より、公立阿伎留医療センターにご理解ご協力を賜り誠に
ありがとうございます。

令和7年4月1日より副院長となりました外科の遠藤と申します。
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



当院の外科は消化器・一般外科であります。私が当院に赴任した平成25年は常勤外科医師5名、更に日本大学小児外科医局から外勤医師の派遣もあり、今思うとあの頃は労働環境に恵まれていました。しかしこの十数年で労働環境を含め医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。医師の総数は20年間で3割以上増えている中、消化器・一般外科医師数は2割以上減っており、唯一減少傾向にある診療科です。さらに20年後には現在の半分まで減少するとされています。胃がん、大腸がん等の消化管のがんや、肝がんや膵がん等の肝胆膵がんに年間40万人以上の方が罹患しており、特に部位別がん罹患数は胃がん、大腸がんが上位に位置しています。日本消化器外科学会は、近い将来（早ければ10年以内にも）、地域における消化器外科の診療体制の維持が困難になり、本来提供されるべき医療サービスに大きな支障をきたすことが懸念されると提言し、当院の消化器・一般外科の診療体制を維持することはとても重要な課題と認識しております。

さらに、ここ最近は薬剤費や材料費、人件費や光熱費等の運営資金が高騰する中、残念ながらそれに見合った診療報酬の改定は行われておりません。病院はコスト削減や加算の取得等、経営改善に向け必死に取り組んでおりますが、今や医療機関の約90%が赤字経営とされる時代になりました。

当院はこの地域の医療を守り、地域の医療ニーズにマッチした急性期病院の役割を果たすため、2023年8月より医師の働き方改革に沿った救急診療体制の見直しを進めてまいります。

した。その結果、救急車の応需件数は増加傾向にあります。また今年度より副院長を増員し、現場の状況を今まで以上に迅速かつ的確に把握することで職場環境の改善や業務改善に努めております。

地域の先生方からのご紹介はできるかぎりお断りのないよう、より一層尽力いたしますので、引き続き公立阿伎留医療センターを宜しくお願ひ申し上げます。

外科外来担当医表　※今年度より常勤1名増員し、5名体制となりました。

月	火	水	木	金
遠藤和伸	矢嶋幸浩	矢嶋幸浩	遠藤和伸	矢嶋幸浩
仁科有美子	碓氷もりの	遠藤和伸（予約のみ）	仁科有美子	遠藤和伸（予約のみ）
加藤 廉		仁科有美子		仁科有美子（予約のみ）

公立阿伎留医療センター開院100周年記念事業について

当院は1925年に単独伝染病院として開院依頼、地域の先生方をはじめ関係者の皆様のおかげで本年開院100周年を迎えることができました。

10月19日(日)「地域の皆さんと祝う100周年」をテーマに記念行事が開催されます。

当日は、記念式典後に吹奏楽やダンス等の催し物やキッチンカー出店を予定しています。皆さんお誘いあわせのうえお越しください。

なお、イベントスケジュール等詳細については、公式ホームページをご参照ください。

